TEATRO REGIO TORINO　OPERA NEWS Vol.1　2012年5月発行

トリノ王立歌劇場

ジャナンドレア・ノセダ指揮　トリノ王立歌劇場管弦楽団/合唱団

2013年
ヴェルディ・イヤー
決定版

大絶賛を受け、2013年11月～12月 再来日決定！

ヴェルディ
仮面舞踏会
Verdi: UN BALLO IN MASCHERA
【原語上演／日本語字幕付】

プッチーニ
トスカ
Puccini: TOSCA
【原語上演／日本語字幕付】

音楽監督
ジャナンドレア・ノセダに聞く

イタリアが誇る歌劇場の一つ、トリノ王立歌劇場が待望の再来日を果たす。音楽監督ジャナンドレア・ノセダが≪トスカ≫、≪仮面舞踏会≫について語る。

岸　純信（オペラ研究家）

Gianandrea Noseda
ジャナンドレア・ノセダ(音楽監督)

© 中島正之

バルバラ・フリットリ
Barbara Frittoli

© 中島正之

マルセロ・アルヴァレス
Marcelo Alvarez

オルガ・ボロディナ
Olga Borodina

ラモン・ヴァルガス
Ramon Vargas

2013年のツアーは「転換期ならばこその名作オペラ」を2つ！

N（ノセダ）「イタリアの歌劇場の公演である以上、今回も2大作曲家プッチーニとヴェルディの名作をお見せしたく思いました。《トスカ》と《仮面舞踏会》には作曲史上の共通点があります。プッチーニは《ラ・ボエーム》(1896)の4年後に《トスカ》(1900)を作り、ヴェルディは《イル・トロヴァトーレ》と《椿姫》(1853)の4年後に《仮面舞踏会》(1859)を書きましたが、この2作には、二人の作曲家がそれぞれ『迷い』を抱えながら試行錯誤していた様子が窺えて、それが新たな面白さにも繋がっています。いわば、今回私が選んだ二つのオペラは、初来日公演で披露した2演目(ラ・ボエームと椿姫)の後に、作曲家が大いに葛藤しながら誕生させた「転換期の名作」になるのです。

—《トスカ》は音の強烈な勢いが支配的な一作ですが、実に自然に無理なく、指揮をされていますね。

N「《トスカ》はヴェリズモ(真実主義)の作とよく言われますが、私は20世紀オペラの開始を告げる一作と捉えています。非常に映画的な作品で、指揮者がオーケストラを鳴らす際も、大げさなくらいに表現の幅を広げるとメリハリがつくと思われがちですが、自分が指揮する場合には、表現の幅を絞った中で感情の『連動』をこしらえたいのです。抑えた表現を通じて心を揺さぶってゆくことで、《トスカ》の本質を皆様に再発見して貰いたいです」。

—《仮面舞踏会》はアリアも名曲揃いですが、第1幕のアンサンブルや終幕の5重唱など、絡み合いの面白さにも事欠きませんね。

N「この時期のヴェルディは、『綺麗な』音楽よりも『場面を見せる音楽』を作らねばと思い悩んでいたようです。そして、その突破口になったのが《仮面舞踏会》の多種多様なアンサンブルでしょう。アメーリアが子供に会わせてと夫に縋る一曲のように名アリアは幾つもありますが、どれも飾りの情景ではなくドラマの骨格の一部です。《仮面舞踏会》は、見どころ＆聴きどころが一つの枠にはめ込まれた王冠のように、どこから見てもきらきらと輝いている名作ですね。今回のマリアーニ演出は、舞踏会シーンも非常に見ごたえあるものに仕上がっています」。

トリノ歌劇場の『強み』を日本の客席に届けたい

—今のトリノ歌劇場の「勢い」と芸術的な強みについて語って下さいますか？

N「一言でいうならば、良いものを造ろうという心意気がある劇場です。どの国のオペラでもスタッフ全員で非常に大切にしながら、特にイタリアの演目に対しては、ひたすら『奉仕する』存在でありたいと意気込んでいます。また、劇場が徐々に前進する中、その歴史に自分たちも関わっているものとそれぞれ自負しています。それがトリノ歌劇場の強みです。個人個人が良い仕事をしようと励むなか、互いに作用し合いながら、成長し発展してきた『古くて新しい』集合体なのです。」

これらの情報は2012年4月15日現在の予定です。
病気、怪我、その他の事情で変更になる場合がございます。

主催：ジャパン・アーツ

「トスカ」より

トリノ王立歌劇場 ～大成功の秘密～

香原斗志（オペラ評論家）

イタリア・オペラのファンには近年、受難の時が続いている。スター歌手の不在、ベルルスコーニ前政権による文化予算の切り詰め……。そのうえイタリアが欧州危機の火元のひとつとなり、かつてのような芸術的水準を維持できないばかりか、出演者に満足にギャラが払えない歌劇場も少なくない。

そんな状況下、ひとり気を吐いているのがトリノ王立歌劇場だ。2010年、《椿姫》と《ラ・ボエーム》を引っ提げた初来日の大成功は記憶に新しいが、大成功といえる状況はむしろイタリア本国においてこそ著しいのである。

「大変厳しい経済状況の中、2012年まで黒字経営を続けており、チケット売上げもスポンサーからの寄付も増額しています。ここ数年、公演回数を増やし、年間約100公演を上演していますが、チケットが買えないというお客様からの苦情が多く、さらに公演数を増やさざるをえないという、うれしい悲鳴を上げています」

そう話すのはヴァルター・ヴェルニャーノ総裁。バロック時代の街並みが世界遺産にもなっているトリノは、たしかにイタリア有数の富裕な都市だが、歌劇場が今日のイタリアで“異質”なほど活況を呈するようになったのは、2007年にジャナンドレア・ノセダが音楽監督に就任してからである。“秘訣”についてノセダに尋ねた。

「公演日を増やしても、公演の質が高くなければお客さんは来てくれません。そこで、たとえば経験と能力がある楽器奏者や合唱団員で、年齢を理由にリタイアする人をむやみに手放さないために、オーディションを行って再雇用するようにしました。その結果、若い演奏家が競争意識を持つという良い循環も生まれています。今年1月にゲルギエフがこの歌劇場管弦楽団を指揮してプロコフィエフを演奏しましたが、“こんなに良いオーケストラに育ったのか”と、驚いていましたね」

歌手を選ぶに当たっては、このような試みがさらに徹底している。ヴェルニャーノ総裁が言う。

「名のある歌手を並べるだけなら簡単ですが、ノセダがすごいのは、どの歌手にどの作品を理想的に演奏する力があるのかを熟知していることです。世界中を飛び回っている彼ならではでしょう。加えて、毎日のようにオーディションを行っています。多くの歌劇場のように歌手の選定をエージェントに任せると、費用がかかるうえ、ある歌手を指定するとほかの歌手を“パッケージ販売”されたりする。オーディションを基本に据えている私たちは、そういう要求には応じません」

こうした賢明なこだわりによって上演の質が向上し、今や世界中から耳の肥えた聴衆がトリノ詣でに参じている。そんな稀有な歌劇場の公演が、再び日本に居ながら楽しめるのである。演目はヴェルディの《仮面舞踏会》とプッチーニの《トスカ》。

「今度の2作は、ヴェルディとプッチーニがそれぞれ迷いの時期に生み出したという、似通った位置にある作品。それを凝りすぎたり、モダンな方向に走りすぎて本質を見失ったりすることもない、味わい深くすぐれた演出でお見せします。キャストについては、間違いなくすばらしい人を連れていきます」

そう語るノセダの自信あふれる表情の根拠は、もう明らかだろう。ノセダのはつらつとドラマを深掘りする指揮と相まって、最高峰の上演はもう約束されたようなものだ。

～豊かで香り高い街～

トリノは、イタリア北西部に位置するピエモンテ州の州都。スイスやフランスにも近く、さらに19世紀のイタリア統一に大きく貢献したサヴォイア家の本拠地であったことからも、今も静かな落ち着いた雰囲気が漂っています。日本では、荒川静香選手が優勝したトリノ・オリンピック、イタリア・セリエAのチーム“ユヴェントス”などが有名ですが、先述のサヴォイア家にフランス王家から多くの王女が輿入れしたことから、世界遺産でもある優美で華麗な王宮や広場、高級ワイン“バローロ”や、チョコレートなど洗練された文化が育まれました。

トリノ王立歌劇場の起源も、そのサヴォイア王室の宮廷劇場。1740年に創設されており、ミラノ・スカラ座よりも古い歴史を持つだけではなく、プッチーニの「ラ・ボエーム」や「マノン・レスコー」が初演された歌劇場としても有名です。

新しい演出家にも目を向け、その役にふさわしい実力のある歌手たちを起用することにより“伝統と革新が両立しており”、今やまさにイタリア・オペラ界を牽引する存在と認められています。

2010年に初来日し、「椿姫」「ラ・ボエーム」を上演し、非常に高いクオリティ、これぞ本場のイタリア・オペラという熱演が、舞台は音楽誌はじめ、新聞各紙で絶賛されました。

トリノ王立歌劇場劇場外観（弦楽器をイメージした優美な曲線）

トリノ王立歌劇場　2013年 11～12月日本公演

ヴェルディ：「仮面舞踏会」	プッチーニ：「トスカ」	「特別コンサート」
演出：ロレンツォ・マリアーニ	演出：ジャン・ルイ・グリンダ	ヴェルディ：レクイエム

2012年秋、詳細決定！ご期待下さい！

<お問合せ> **ジャパン・アーツぴあ (03)5774-3040**
www.japanarts.co.jp/

（キリトリ）

今後の公演チラシをお送りいたします。ご希望の方は下記までお送り下さい。

（ジャパン・アーツ夢倶楽部会員の方は、ご記入いただく必要はございません。）

〒150-8905 渋谷区渋谷2-1-6　**ジャパン・アーツ「トリノ」係**

Fax(03)3499-8102 ※おかけ間違いのないようご注意ください。

〒　　- ご住所	
（ふりがな） お名前	ジャパン・アーツからDMが届いている方で封筒右下のお客様番号がわかる方はご記入下さい。

<お問合せ>
ジャパン・アーツぴあ
(03)5774-3040
www.japanarts.co.jp/

<個人情報の取扱について>
お客様から収集した個人情報につきましては、ジャパン・アーツが主催、共催、販売協力する公演の広告宣伝物、案内文、申込書、チケットの送付、協賛企業に関する広告宣伝物の送付、各種アンケート調査の依頼、友の会申込書、機関紙、当社主催のイベント案内の送付、新しいサービスの開発及び運用の目的で利用いたします。
本人の同意なしに第三者に個人情報を開示・提供する事はいたしません。